産経 25.5.-8 (ハ)

# 古民家で田舎体験して

## 朝来・黒川地区に農家民宿オープン

過疎化が進んでいる朝来市生野町黒川地区で、地元住民が古民家を修復した農家民宿「まるつね」をオープンさせた。過疎のマイナスイメージを逆手に、豊かな自然をアピール。国の特別天然記念物・オオサンショウウオが生息する市川源流は庭続きで「オオサンショウウオに会える宿」をうたっている。

### 「過疎化に歯止めを」

経営するのは、黒田哲郎さん(44)とこの古民家で生まれた妻の真澄さん(48)。屋号は、真澄さんの父親で8年前に69歳で亡くなった常二(つねじ)さんにちなみ、常二さんが生前、「都会の人に田舎体験をしてもらいたい」と話していた思いを実現したい気持ちで名付けたという。

古民家は築85年の木造2階建て延べ約200平方メートル。昨年まで約40年間空き家状態で、基礎部分はかなり傷みが目立ったが、「古民家を再生させて、過疎化に歯止めをかけたい」と、県の「古民家再生促進支援事業」を使って昨年10月から修復し、今年4月に農家民宿をオープンした。

農家民宿「まるつね」を始めた黒田さん夫婦＝朝来市生野町黒川

### 豊かな自然アピール

黒川地区は県中部の山間の生野ダムの上流に位置し、人口は約70人。うち65歳以上は40人で、高齢化率は50%を超え、過疎化が進んでいる。地区内には黒川温泉があるが、後継者の大半は地区を離れて生活。このため、地区内は空き家が増えている。

集落の存続に危機感を感じた黒田さんは「『過疎』と嘆いてばかりでは何も始まらない」と、古民家で田舎体験ができる農家民宿を考えた。民宿経営は初めてだが、真澄さんが女将、黒田さんが番頭として、「ゆっくりと過ごしてほしい」と、宿泊客は1日1組に限定。素泊まり(3500円)が基本だが、口コミで予約も徐々に増えているという。

黒田さん夫婦の取り組みは、各地の過疎地域が抱える課題解消への手がかりになるかもしれない。

問い合わせは「まるつね」(☎080・3804・9622)。

# 児童らの演奏など 家族連れらにぎわう

## 豊岡・竹野で「北前まつり」

江戸時代に日本海廻りで物資を輸送した北前船で知られる豊岡市竹野町の竹野浜周辺で、「北前まつり」が開かれ、多くの家族連れらでにぎわった。

竹野は、江戸時代から明治にかけて日本海廻りの航路を使って北海道と大阪の間でさまざまな物資を輸送した北前船で知られる。

「将来を夢見て荒波に乗りだして行った船乗りたちの心意気を、『北前スピリット』として現代に引き継ごう」と、町内全地区、学校、団体、事業所など竹野全域上げて、北前まつりを開いていて、今年で27回目となった。

北前船の模型が登場する北前船パレードや、竹野小学校の金管バンド・バトンクラブの児童たちが演奏やバトンを披露したステージイベントが行われたほか、会場では竹野交流市場などが開かれ、多くの家族連れや観光客でにぎわっていた。

北前まつりで演奏を披露する竹野小学校の児童ら＝豊岡市竹野町